

設定理由：母性看護は、女性の一生を通して健康の維持・増進、疾病の予防にかかわり、各ライフサイクルにおける母性の機能が健全に発揮できるように働きかける看護活動である。母性看護の対象、目的と役割の理解ができるための科目として設定した。

科目目標：母性看護の対象とその特性、母性看護の目的と役割を理解する。

単元	単元目標	教授内容	時間	方法
1. 母性看護の目的	1. 母性看護の目的と役割を理解できる 2. リプロダクティブ・ヘルス/ ライツが理解できる。	1. 母性看護の目的 1) 母性看護とは 2) 母性看護の目的 3) 母性看護の役割 4) リプロダクティブ・ヘルス/ライツ	4	講義
2. 人間の性と生殖	1. 人間のセクシュアリティの特徴が理解できる。	1. セクシュアリティと概念 1) 性と生殖 2) 性に関する課題・DV	4	講義
3. 母性看護の対象	1. 母性看護の対象とその特性について理解できる。 2. 各期の母性の健康への支援が理解できる	1. 母性看護の対象・特性とその看護 1) 女性のライフサイクル 2) 思春期 3) 成熟期 4) 更年期 5) 老年期 6) 母性・父性意識	9	講義 GW・発表
4. 母性看護の変遷	1. 母性看護の歴史が理解できる。	1. 母性看護の変遷 1) 日本の母性看護の変遷 2) 諸外国の母性看護の変遷	2	講義
5. 母性と生命倫理	1. 母性と生命倫理について考え、倫理観を養う。	1. 母性と生命倫理 1) 生命の価値 2) 生殖医療の現状 3) 生殖医療への多様な考え方 4) インフォームド・チョイス	4	講義 ディベート
6. 母子保健の動向	1. 母子保健の動向と課題が理解できる。	1. 母子保健の動向 1) 母子保健統計 2) 母子保健行政の変遷 3) 母子を守る法律とその現状 4) 母性をとりまく社会の現状と課題	6	講義
7. 評価			1	
方 評 法 価	試験で評価する。 方法は担当講師に一任する。			
ス テ ト キ	森 恵美：系看専門Ⅱ 母性看護学概論（医学書院） 国民衛生の動向 財団法人 厚生統計出版協会			

科目：母性看護技術論

1単位（15時間）

設定理由：新生児（褥婦）を看護していく上で必要な技術を身につけさせるための科目として設定した。

科目目標：新生児（褥婦）を看護していく上で必要な技術を身につける。

単 元	単 元 目 標	教 授 内 容	時間	方法
1. 母性看護技術 演習	1. 母性看護に必要な 看護技術を身につけ る。	1. 看護技術 新生児 1) 哺乳瓶授乳 2) オムツ交換 3) 沐浴 4) 身体計測（身長・体重・ 頭囲・胸囲） 5) フィジカルアセスメント	14	講義 VTR 演習
2. 評価			1	
評価 方法	技術試験をおこなう 方法は担当講師に一任する			
テキ スト	森 恵美：系看専門Ⅱ 母性看護学各論 （医学書院）			

科目：母性健康支援論Ⅰ（妊娠期・分娩期）

1単位（30時間）

設定理由：女性のライフサイクルにおける妊娠・分娩・産褥期は、母性機能のなかで重要な時期である。妊娠期・分娩期にある対象の特性と、生理的変化でありながら援助が必要であり、常に異常のリスクを伴った状態であることを学び、必要な看護を理解できるための科目として設定した。

科目目標：妊娠期・分娩期にある対象の特性や必要な看護を理解する。

単元	単元目標	教授内容	時間	方法
1. 妊娠期における看護	1. 妊娠期の看護が理解できる。	1. 妊娠期における看護 1) 妊婦の健康管理の目的 2) 妊婦の理解 (1) 妊娠の経過 (2) 妊婦の心理 3) 妊婦の看護 (1) 妊婦の生活指導 (2) 妊婦の食生活と保健指導・分娩準備教育 演習：レオポルド触診 胎児心音の聴取 子宮底長・腹囲計測	5      2	講義 演習
2. 妊娠期の異常と看護	1. 正常な経過を逸脱した対象の特性と看護が理解できる。	1. 正常を逸脱した対象の特性と看護 1) 流産・早産 2) 妊娠高血圧症候群 3) 妊娠貧血 4) 前置胎盤	4	講義
3. 妊娠期の看護アセスメント	1. 妊婦の健康診査から健康課題の看護アセスメントの方法が理解できる	1. 妊娠後期の事例を通して必要な看護アセスメントの仕方を学ぶ	8	演習
4. 分娩期における看護	1. 産婦の看護が理解できる。	1. 分娩期における看護 1) 産婦の看護の目的 2) 産婦の理解 (1) 分娩の経過 (2) 母体・胎児に及ぼす影響 3) 産婦の看護 (1) 母体・胎児の経過の観察 (2) 日常生活への援助 (3) 苦痛の緩和 (4) 不安への援助	6      4	講義 VTR
5. 分娩期の異常と看護	1. 正常な経過を逸脱した対象の特性と看護が理解できる。	1. 正常を逸脱した対象の特性と看護 1) 胎児仮死 2) 常位胎盤早期剥離 3) 帝王切開分娩（母子分離を含む）	4   1	講義
6. 評価				
評価方法	試験で評価する 方法は担当講師に一任する			
テキスト	森 恵美：系看専門Ⅱ 母性看護学各論（医学書院）			

設定理由：女性のライフサイクルにおける産褥期は、母性機能のなかで重要な時期である。産褥期にある対象の特性と、生理的変化でありながら援助が必要であり常に異常のリスクを伴った状態であることを学び、必要な看護を理解できるための科目として設定した。

妊娠・分娩の経過は、胎児や新生児の身体機能を左右する。また対外生活の適応機能が未熟な新生児は常に正常からの逸脱が起こる可能性があるため、必要な看護を理解できるための科目として設定した。

科目目標：産褥期にある対象の特性や必要な看護を理解する。

新生児期にある対象の特性や必要な看護を理解する。

単元	単元目標	教授内容	時間	方法
1. 産褥期における看護	1. 褥婦の看護が理解できる。	1. 産褥期における看護 1) 褥婦の看護の目的 2) 褥婦の理解 (1) 産褥経過 (2) 褥婦の心理 3) 褥婦の看護 (1) 正常な復古促進への援助 (2) 母乳栄養確立への援助 (3) 母子関係確立への援助 ☆演習：授乳	8	講義 VTR 演習
2. 産褥期の異常と看護	1. 正常な経過を逸脱した対象の特性と看護が理解できる。	1. 正常を逸脱した対象の特性と看護 1) 産褥熱 2) 乳腺炎 3) マタニティーブルーズ	4	講義
3. 新生児期の特性とその看護	1. 新生児の看護が理解できる。	1. 新生児の看護 1) 新生児看護の目的 2) 新生児期の特徴 (1) 呼吸 (2) 循環 (3) その他の変化 3) 出生直後からの看護 4) 日常生活への援助	4	講義 VTR
4. 新生児期の異常と看護	1. 正常を逸脱した対象の特性と看護が理解できる。	1. 正常を逸脱した対象の特性と看護 1) 新生児仮死 2) 低出生時体重児 3) 分娩時損傷 4) 呼吸障害 5) 新生児溶血性疾患	4	講義
5. 産褥期のアセスメント	1. 褥婦（新生児）の健康診査から健康課題の看護アセスメントの方法が理解できる	1. 産褥期（新生児も含む）にある事例を通して看護アセスメントの方法を学ぶ	9	演習
6. 評価			1	
方 評 法 価	試験で評価する 方法は担当講師に一任する			
ス テ ト キ	森 恵美 :系看専門Ⅱ 母性看護学各論 (医学書院) 太田 操 :ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 (医歯薬出版株式会社)			

設定理由：こころの健康を維持するための援助を行うために、看護における精神看護の対象・目的を理解し、精神を障がいされた人の問題と社会的背景を学び、次に、人の成長発達過程・社会的状況のなかで生じる精神の危機的状況とその看護を学ぶための科目として設定した。

科目目標：精神看護の対象・目的を理解する。

人の成長発達過程・社会的状況のなかで生じる精神の危機的状況を理解する。

単 元	単 元 目 標	教 授 内 容	時間	方法
1. 精神看護学の考え方	1.精神看護学の考え方を理解する。	1. 精神看護の変遷 2. 環境の変化と社会病理 3. こころの健康・不健康、こころの病気の考え方 4. 精神科看護から精神看護学へ 5. 精神看護学における看護師の役割	8	講義 演習
2. こころの健康とその考え方	1.こころの健康とその考え方を理解する。	1. こころの健康とその考え方 2. こころの健康の維持	2	講義
3. 人間関係とこころの働き	1.人間関係とこころの働きを理解する。	1. 人間関係にはぐくまれる個人のこころ 2. 人間関係の中でのこころの問題 3. こころの問題への対応 4. 「からだ」と「こころ」および人間関係	7	講義
4. 環境とこころの働き	1.環境とこころの働きを理解する。	1. 暮らしの場とこころの健康 2. 教育の場とこころの健康 3. 職場とこころの健康 4. 地域社会とこころの健康	4	講義 演習
5. 危機状況とこころの働き	1.危機状況とこころの働きを知る。	1. 特殊な状況(災害時など)における危機の諸相	4	講義 演習
6. 地域精神保健活動の展開	1.地域精神保健活動の展開を知る。	1. 精神保健の概念 2. 地域精神保健福祉活動	4	講義
7. 評価			1	
方 評 法 価	試験で評価する 方法は担当講師に一任する			
ス テ キ	武井 麻子：系看専門Ⅱ 精神看護の基礎 (医学書院)			

科目：精神の健康課題

1 単位（15 時間）

設定理由：精神機能障がい者の抱える症状の理解、検査、治療、制度について学び、看護の対象の状況把握、今後の看護の方向性が考えられるために必要な科目として設定した。

科目目標：精神機能障がい者の抱える症状の理解、検査、治療、制度について理解する。

単 元	単 元 目 標	教 授 内 容	時間	方法
1. わが国の精神保健福祉制度	1. わが国の精神保健福祉制度を理解する。	1. 精神保健福祉の変遷 2. 精神保健福祉法と医療・行政	2	講義
2. 精神障がい者の抱える症状の理解	1. 精神障がい者の抱える症状を理解する。	1. 精神症状 1)精神現象の基礎 2)精神症状の種類 3)状態像 2. 中枢神経症状	2	講義 VTR
3. 精神障がいの診断と検査	1. 精神障がいの診断と検査を知る。	1. 診断の基礎と要点 2. 検査の種類 1)神経学的検査 2)神経学的補助診断法 3)心理検査	2	講義
4. 主な精神障がいの診療	1. 主な精神障がいの診療を知る。	1. 各種治療法 1)薬物療法 2)電気ショック療法 3)社会復帰療法 4)精神療法 2. 主な疾患の診療 1)アルコール依存と薬物依存 2)統合失調症 3)躁うつ病 4)神経症と心因精神病 5)パーソナリティ障害 6)児童・思春期の主な精神障がい	8	講義 VTR
5. 評価			1	
方 評 法 価	試験で評価する 方法は担当講師に一任する			
ス テ キ	武井 麻子：系看専門Ⅱ 精神看護の基礎 （医学書院） 長谷川 浩：系看別巻 精神保健福祉 （医学書院）			

設定理由：精神症状により日常生活が障害された人に対して、生活を整えるための知識・技術を学ばせ、その中で、精神障がい者と看護者との治療的関係の意味や役割を知り、看護者として適切な援助ができるための科目として設定した。

科目目標：精神症状により日常生活が障害された人に対する援助の方法を理解する。

単 元	単 元 目 標	教 授 内 容	時間	方法
1.精神障がい者の看護の基本	1. 精神障がい者の看護の基本を理解する。	1.対人関係を育成する技術 1)対人関係とコミュニケーション 2)患者—看護師関係の理解 2.精神状態をアセスメントする技術 観察の視点（精神症状、セルフケア行動） 3.セルフケアを促進する技術	2	講義  DVD 演習
2. 対人関係能力を育成する技術	1. 対人関係能力を育成する技術を理解する	1.関係性の病 2.対人関係に作用する要素とその形成	4	講義
3. 援助関係を構築する技術	1. 援助関係を構築する技術を理解する。	1.援助関係を構築することの重要性 2.専門的な援助関係とその発展過程 3.援助関係の深まりと援助関係のレベルを決定する要因 4.援助関係で生じること 5.援助関係を構築する技術 プロセスレコード	6	講義 演習
4.精神力動の理論を活用して対象を理解する技術	1.精神力動の理論を活用して対象を理解する技術を知る。	1.精神力動 2.無意識とこころ 3.こころの構造と働き 4.精神性的発達 5.分離固体化説と不安 6.防衛機制	4	講義
5.発達理論を活用して対象を理解する技術	1.発達理論を活用して対象を理解する技術を知る。	7.精神力動的視点に基づく看護ケア 1.精神看護と発達理論 2.主な発達段階理論と理解 3.発達段階の特徴と理解	5	講義
6. ケース像の形成にかかわる技術	1. ケース像の形成にかかわる技術をわかる	4.発達段階のアセスメントの視点 1.精神看護の中でのケース像の重要性 2.ケース像形成の過程	2	講義
7. セルフケアを促進する技術	1. セルフケアを促進する技術と理論の関連を理解する。	3.ケース理解を障害しているもの 1.精神看護でのセルフケア援助の必要性 2. セルフケアに関する理論の紹介	6	講義 演習
8. 評価		1) オレム 2) オム・アンダーウッドモデル	1	
方 評 法 価	試験で評価する 方法は担当講師に一任する			
ス テ キ	武井 麻子：系看専門Ⅱ 精神看護の基礎 (医学書院) 武井 麻子：系看専門Ⅱ 精神看護の展開 (医学書院)			

設定理由：精神の健康課題を持つ人とその家族に対して、必要な看護を学ぶための科目として設定した

科目目標：精神の健康課題を持つ人とその家族に対しての必要な看護を理解する。

単 元	単 元 目 標	教 授 内 容	時間	方法
1. 精神障がい者の理解と考え方	1. 精神障がい者の理解と考え方がわかる。	1.精神看護実践の構造と技術 1)精神看護の目的 2)精神看護の技術とは 2.精神看護学の機能と特徴 1)精神看護の対象 2)精神看護の役割の拡大 3.精神医療・精神看護の動向と展望 1)日本の精神医療の動向 2) 精神障がい者の権利擁護 4.精神障がい者の理解と考え方 1) 体験世界と、病気や症状を受容する過程	4	講義 DVD 演習
2.精神障がい者家族の理解とその援助	1. .精神障がい者家族の理解とその援助について理解する。	1.家族の心理 2.家族の負担 3.家族が危機を乗り越えるための援助	2	講義
3.主な症状に対する看護	1. .主な症状に対する看護を理解する。	1.精神症状と看護 1)不安状態 6)拒食症状 2)心気状態 7)精神運動興奮 3)強迫症状 8)自発性減退 4)抑うつ状態 9)昏迷状態 5)幻覚・妄想状態	8	DVD
4.診察・検査および治療に伴う看護	1. 診察・検査および治療に伴う看護を理解する。	1.診療に伴う看護 2.検査に伴う看護 3.薬物療法に伴う看護 4.痙攣療法を受ける患者の看護 5.精神療法を受ける患者の看護 6.社会療法を受ける患者への援助	4	講義
5.精神障がい者の看護	1. .精神障がい者の看護を理解する。	1.アルコール・薬物依存患者の看護 2.統合失調症患者の看護 3.躁うつ病患者の看護 4.心因性精神病と神経症患者の看護 5.パーソナリティ障害者の看護 6.自閉症患児の看護 7.摂食障害患児の看護	9	講義 DVD
6.精神科リハビリテーションの展開	1. .精神科リハビリテーションの展開を知る。	1.精神科リハビリテーションと地域精神保健 2.地域におけるリハビリテーション・サービス 3.精神科リハビリテーションと今後の課題	2	講義 DVD 演習
7. 評価			1	
方 評 価	試験で評価する 方法は担当講師に一任する			
ス テ ー ト キ	武井 麻子：系看専門Ⅱ 精神看護の基礎 (医学書院) 武井 麻子：系看専門Ⅱ 精神看護の展開 (医学書院)			



設定理由：成人期にある対象の生物学的、心理学的、社会学的特徴を統合的に捉え、その対象の健康に影響する要因を理解し、健康を維持・増進し、疾病を予防するための専門職としての看護の機能と役割について学ぶための科目として設定した。

科目目標：成人期にある対象の特徴、および看護の目的・役割について学び、成人期にある対象の健康問題と健康の保持・増進のための保健活動について理解する。

単 元	単 元 目 標	教 授 内 容	時間	方法	
1. 対象の理解	1. 対象の特徴を生活との関連で理解する。	1. 成長発達からみた成人の特徴 2. 生活状況からみた成人の特徴	29	講義 演習	
2. 特定の健康課題	1. 生活からみた健康問題について理解する。	1. 健康に影響を及ぼす要因 2. 生活習慣に関連する健康障害 3. 職業に関連する健康障害 4. 生活ストレスに関連する健康障害			講義
3. 看護アプローチの基本	1. 看護アプローチの方法、及び基本となるものについて理解する。	1. 病気の受容過程と心理的变化に対する援助 1) 危機へのアプローチ 2) 行動科学的アプローチ		講義	
4. 健康生活に対応した看護	1. 看護の目的と機能を理解する。	1. 看護の目的 1) 発達課題達成への援助 2) セルフケア獲得への援助 3) 社会復帰に向けた身体的・社会的・精神的機能の維持・増進 4) 適応過程を促す援助		講義	
5. 看護活動の場と役割	1. 生活と健康をまもり育むシステムや場、役割について理解する	1. 看護活動の場やシステムと役割		1	講義
6. 評価		1) 保健・医療・福祉システム 2) 健康をまもる法律とその対策			
評価方法	試験で評価する 評価方法は担当講師に一任する				
テキスト	安酸 史子：ナーシング・グラフィカ 22 成人看護学概論（メディカ出版） 小松 浩子他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論（医学書院） 国民衛生の動向 財団法人 厚生統計協会				

科目：生命危機支援論

1単位（30時間）

設定理由：成人期は人生においてもっとも長い時期にあり、生命を脅かされる健康問題を持つことは日常生活に大変な影響を及ぼす。社会生活・家庭生活では社会的役割も大きく、生命危機の状態にある成人期の特有の健康問題と生体反応を捉え、生命危機状態を脱し、回復に向かう援助が理解できるための科目として設定した。

科目目標：成人期にある対象の周手術期における生体反応とその意味を理解し、生命危機状態が回復に向かうように援助するための看護および危機状態にある対象の家族への看護について理解する。

単 元	単 元 目 標	教 授 内 容	時間	方法
1. 生命の危機状態にある対象の看護	1. 生命の危機状態にある対象の看護について理解する。	1. 循環機能障害が生体反応及び生活に及ぼす影響 2. 急性循環不全の看護アセスメント 1) 心拍出量低下時の看護 2) 心筋収縮障害時の生活活動拡大の看護 3) 心臓カテーテルによる検査・治療時の看護 3. 救命処置と集中治療における看護 1) モニタリング中の看護アセスメント 2) 血圧コントロールが必要な対象の看護	29	講義
2. 周手術期にある対象の看護	1. 手術に伴う生体の反応・生活への影響と看護について理解する	1. 術前 1) 術後合併症のリスクアセスメント 2) 合併症の予防処置と指導 3) 不安のアセスメントと援助 2. 術中 1) 麻酔導入時の援助 2) 手術体位とその影響 3) 外科的感染対策と事故防止 3. 術後 1) 人工呼吸器装着時の援助 2) 肺理学療法時の援助 3) 疼痛緩和ケア 4. 手術が日常生活に及ぼす影響 1) 食事形態の変更 2) 日常生活動作の変更		講義
3. 評価			1	
評価方法	試験にて評価する 評価方法は担当講師に一任する			
テキスト	浅野浩一郎：系看専門Ⅱ 呼吸器（医学書院） 上塚 芳郎：系看専門Ⅱ 循環器（医学書院） 矢永 勝彦：系看別巻 臨床外科看護総論（医学書院） 北島 政樹：系看別巻 臨床外科看護各論（医学書院） 道又 元裕：系看別巻 クリティカルケア看護（医学書院） 小松 浩子他：系看専門Ⅱ 成人看護学総論（医学書院）			

設定理由：成人期は人生において最も長い時期にあり、様々な生活行動に健康問題を持つことは、日常の生活に大変な影響を及ぼす。多様な健康問題を生じるだけでなく、社会生活・家庭生活におけるストレスは大きい。そこで、生活行動の維持・拡大、及び社会復帰・自立にむけた適応過程を学び生活を整える援助が理解できるための科目として設定した。

科目目標：成人期にある対象の日常生活行動の障害の原因・状況を理解し、日常生活の維持・拡大に向けた看護及び家族の反応と適応過程をたどる看護について理解する。

単 元	単 元 目 標	教 授 内 容	時間	方法
1. 日常生活行動として運動機能が障害された対象の看護	1. 運動機能障害に応じた看護について理解する。	1. 運動機能障害が日常生活に及ぼす影響 2. 運動機能障害時の看護 1) 検査時の看護 2) 固定法、牽引療法時の看護 3) 機能訓練の適応と原則 4) 手術を受けた患者の看護 5) 運動機能の障害と疼痛への緩和 6) 健康レベルに対応した ADL の訓練と看護 7) 障害の受容過程と看護	29	講義 演習
2. 日常生活行動として認知機能が障害された対象の看護	1. 認知機能障害に応じた看護について理解する。	1. 認知機能の障害が日常生活に及ぼす影響 2. 認知機能障害時の看護 3. 認知脳機能障害の検査時の看護 4. 脳神経系の手術療法をうける対象の看護		講義
3. 日常生活行動として排泄行動が障害された対象の看護	1. 排尿・排便機能の障害に応じた看護について理解する。	1. 排泄機能障害が日常生活に及ぼす影響 2. ボディイメージの変容 3. 一般検査と看護 4. 排尿機能障害の看護 5. 透析治療を受ける患者の看護 6. 排便機能障害の看護 7. 人工肛門造設術を受けた患者の看護		講義 演習
4. 評価			1	
方 評 法 価	試験で評価する 評価方法は担当講師に一任する			
テ キ ス ト	金田 智：系看専門Ⅱ 消化器 (医学書院) 井手 隆文：系看専門Ⅱ 脳・神経 (医学書院) 大東 貴志：系看専門Ⅱ 腎・泌尿器 (医学書院) 織田 弘美：系看専門Ⅱ 運動器 (医学書院) 北島 政樹：系看別巻 臨床外科看護各論 (医学書院) 小松 浩子他：系看専門Ⅱ 成人看護学総論 (医学書院)			

科目設定の理由：成人期は人生においてもっとも長い時期にあり、慢性的な健康問題を持つことは日常の生活に大変な影響を及ぼす。社会生活、家庭生活、日常の人間関係において多様なライフスタイルのなかで、疾病のコントロールを必要とする成人期の特有の健康問題と生体反応を捉え、生活を支える援助が理解できるための科目として設定した。

科目目標：成人期にある対象の慢性的疾患における生体反応および家族の反応に対し生活指導を中心に、社会復帰をめざす看護について理解する。

単 元	単 元 目 標	教 授 内 容	時間	方法
1. 慢性的に代謝機能が障害された対象の看護	1. 代謝機能障害の種類とその障害時の看護について理解する	1. 成人期における代謝障害の様態 2. 代表的な代謝障害を持つ人の日常生活への影響 3. 健康状態および日常生活のコントロールに必要な知識・技術の獲得援助 1) 血糖・尿糖の自己測定法 (演習：血糖チェック) 2) 合併症予防の生活指導 3) 疾病のコントロールに必要な治療 (食事・運動・薬物療法) に応じた看護	29	講義 講義
2. 慢性的に内部環境調節機能が障害された対象の看護	1. 内部環境調節機能障害に応じた看護について理解する。	1. 成人期における内部環境調節機能障害の様態 1) 内分泌機能障害時の影響と看護 2) 体液の調節障害時の影響と看護 3) 自律神経調節障害時の影響と看護		講義
3. 慢性的に生体防御機能が障害された対象の看護	1. 生体防御機能の障害と看護について理解する	1. 生体防御機能の障害が日常生活に及ぼす影響と看護アセスメント 1) アレルギーを持つ患者の生活指導 2) 膠原病を持つ患者の生活指導 3) 骨髄移植を受ける患者の看護 4) 熱傷処置		講義
4. 慢性的に性・生殖機能が障害された対象の看護	1. 性・生殖機能の障害に応じた看護について理解する	1. 性・生殖機能の障害の日常生活への援助 1) 男性生殖器機能の障害時の看護 2) 女性生殖器機能の障害時の看護 3) 生殖機能の治療に伴う看護 4) 性感染症時の看護 5) HIV 感染時の看護		講義
5. 評価			1	
評価方法	試験で評価する 評価方法は担当講師に一任する			
テキスト	飯野 京子：系看専門Ⅱ 血液・造血器 (医学書院) 金田 智：系看専門Ⅱ 消化器 (医学書院) 黒江ゆり子：系看専門Ⅱ 内分泌・代謝 (医学書院) 岩田健太郎：系看専門Ⅱ アレルギー 膠原病 感染症 (医学書院) 佐藤 博子：系看専門Ⅱ 皮膚 (医学書院) 小松 浩子他：系看専門Ⅱ 成人看護学総論 (医学書院)			

設定理由：成人期は人生において最も長い時期にあり、様々な健康問題を持つことは日常の生活に大変な影響を及ぼす。終末期は治療困難・予後不良の状態となる状態で、社会生活、家庭生活の継続が困難となり、家族の精神的苦痛・直面する危機は大きい。治療困難となった成人とその家族が置かれた状況を理解し、予後不良の状態に伴う苦痛の緩和及び、看取りをする家族への支援が理解できるための科目として設定した。

科目目標：治療困難となった成人とその家族が置かれた状況を理解し、さらに予後不良の状態に伴う苦痛の緩和及び家族の反応と適応過程をたどる看護について理解する。

単元	単元目標	教授内容	時間	教授方法
1. 治療困難・予後不良にある対象の理解	1. 治療困難・予後不良にある対象とその家族への看護が理解できる。	1. 終末期に生じやすい症状マネージメントと看護 1) 癌性疼痛 2) 全身倦怠感 3) 呼吸困難 4) 死前喘鳴 5) 便秘 2. 死に逝く人の苦悩の緩和 1) 身体的苦痛の緩和 2) 精神的苦痛の緩和 3) 社会的苦痛の緩和 4) スピリチュアルケア 5) エンゼルケア 3. 看取りをする家族への支援 1) グリーフケア ・遺族へのグリーフワーク 4. 緩和ケアと看護アセスメント 1) チームアプローチ 2) 意思決定を支える看護 ・ギア・チェンジ ・リビングウィル 3) ケアにおける倫理的判断 5. 肺がんで末期状態にある人の患者の看護 1) その人らしさを支える視点 2) 日常生活への援助の視点 3) 家族の希望をささえる視点	29	講義 演習
2. 評価			1	
方 評 法 価	試験にて評価する 評価方法は担当講師に一任する			
テ キ ス ト	宮下 光令：ナーシング・グラフィカ 成人看護学 緩和ケア (メディカ出版) 小松 浩子：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 (医学書院)			

設定理由：日常生活行動を把握し、患者の自立を目指し患者のもてる力を引き出すための技術が必要である。そこで疾病のコントロールを必要とする成人の生活を支える指導・援助技術と生命危機の状態にある成人の生体反応を観察する技術、および生命危機状態を脱し回復に向かうための援助技術が習得できるための科目として設定した。

科目目標：社会復帰を目指す成人期にある対象とその家族に対して、日常生活に対する生活指導技術と周手術期における生体反応を観察し、生命危機状態が回復に向かうように援助するための技術を習得する。

単元	単元目標	教授内容	時間	教授方法
1. 日常生活を支える指導技術	1. 日常生活を支える指導技術を習得する。	1. 疾病コントロールが必要な対象の特徴 2. 生活指導の方法の実際 1) 生活指導に関する指導計画・指導案立案 2) 学生間で指導案に基づき個別指導及び集団指導について実施する。 3) 指導の評価	19	講義 演習
2. 身体侵襲を伴う技術	1. 周手術期の身体侵襲を伴う技術を習得する。	1. 胃又は腸の悪性疾患により手術を受ける患者で、生体機能の変化の著しい患者の看護技術 1) 疼痛緩和技術（リラクゼーション・マッサージ他） 2) 手術直後の観察法 3) 体位変換 4) 早期離床 5) ドレーン管理の方法 6) 吸引 7) IVH の管理 8) 心電計モニター	10	講義 演習
3. 評価			1	
評価方法	演習内容にて評価する。 評価方法は担当講師に一任する			
テキスト	香春 知永 : 系看別巻 臨床外科看護総論 (医学書院) 北島 政樹 : 系看別巻 臨床外科看護各論 (医学書院) 任 和子 : 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術学 (医学書院) 小松 浩子他: 系看専門II 成人看護学総論 (医学書院)			

設定理由：老年期にある対象の身体的、精神的、社会的変化を知り、老年のライフステージとその健康課題を理解する必要があることから科目として設定した。

科目目標：老年看護の対象と特徴を学び対象の健康維持・増進のための老年看護の役割について理解する。

単 元	単 元 目 標	教 授 内 容	時間	方 法
1. 老年期の理解	1. 老年期を生きる人々の特徴を理解する。	1. ライフサイクルからの老年期の理解 2. 人口学的指標からの老年期の理解 3. 健康指標からの老年期の理解 4. 生活の視点からの老年期の理解 5. 老年期の発達と成熟 6. 高齢者の多様性	12	講義  VTR
2. 加齢に伴う変化	1. 加齢に伴う変化の特徴を理解する。	1. 加齢に伴う変化の特徴 2. 身体的機能の変化 3. 精神的機能の変化 4. 社会的機能の変化  ☆演習（4時間） 老人の擬似体験	9	講義  演習
3. 老年看護の役割と機能	1. 高齢者をとりまく社会システム・老年看護の基本について理解する。	1. 高齢者と社会システム 2. 老年看護活動の場と看護活動 1) 老年看護活動の場 2) 看護活動 3. 老年看護における倫理的課題	8	講義
4. 評価			1	
方 評 法 価	試験で評価する 方法は担当講師に一任する			
ス テ キ	中島紀恵子：系看専門Ⅱ 老年看護学，医学書院 佐々木英忠：系看専門Ⅱ 老年看護 病態・疾患論，医学書院 国民衛生の動向，厚生統計協会			

設定理由：高齢者の生命維持・健康生活を維持するために、加齢に伴う正常な変化や高齢者の日常生活動作能力の程度等を判断して看護する必要があることから科目として設定した。

科目目標：老年期にみられる加齢に伴う正常な変化を学び、高齢者の健康な日常生活を維持するための看護を理解する。

単 元	単 元 目 標	教 授 内 容	時間	方 法
1. 老年看護の基礎的技術	1. 高齢者の観察技術を身につける。	1. 加齢変化に伴う身体的変化の観察 1) 加齢変化の正常と異常 2) 日常生活動作能力の程度 3) 身体徴候と訴え	2	講義 VTR
	2. 高齢者とのコミュニケーション技術を身につける。	2. 高齢者とのコミュニケーション 1) 加齢とコミュニケーション能力 2) 高齢者とのコミュニケーションの方法	2	
2. 高齢者の健康を支える看護	1. 健康生活を維持するための視点・方法について理解する	1. 健康生活維持のための視点 1) 食生活と栄養 2) 運動とレクリエーション 3) 休息と睡眠 4) 排泄 5) 身だしなみ 6) 対人関係と社会的活動 (演習：食事・口腔ケア 4時間)	10	講義 演習
	2. 加齢に伴う身体的徴候と看護について理解する	1. 痛み 2. かゆみ 3. 不眠 4. しびれ 5. 冷え 6. 脱水 7. 便秘 8. 振戦	12	
	3. 事故・災害への予防と救急への対応について理解する	1. 転倒・転落 2. 居室での事故防止 1) 居住環境 2) 環境整備への援助 3. 窒息 4. 災害時の対応	3	
3. 評価			1	
方 評 法 価	試験で評価する 方法は担当講師に一任する			
ス テ ト キ	中島 紀恵子：系看専門Ⅱ 老年看護学 (医学書院) 佐々木英忠：系看専門Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 (医学書院) 亀井 智子：根拠と事故防止からみた老年看護技術 (医学書院)			



設定理由：老年期にある人の健康課題に対する治療過程における看護を理解する必要があることから科目として設定した。

科目目標：健康課題のある高齢者の治療やリハビリテーション過程における看護を理解する。

単 元	単 元 目 標	教 授 内 容	時間	方 法
1. 治療・リハビリテーションを受ける高齢者の看護	1. 治療・リハビリテーションが高齢者に及ぼす影響と看護について理解する。	1. 受療形態に応じた看護 1) 外来 2) 入院・退院 2. 薬物療法 1) 疾患の重複による多剤投与 2) 加齢と薬物の副作用 3) 副作用を招き易い薬物 4) 薬物副作用の徴候の観察・評価 5) 服薬過誤とその予防 3. 手術 1) 術前の指導と状態管理 2) 早期離床の重要性 3) 合併症の予防 4. リハビリテーション 1) 高齢者の運動に対する配慮 2) 訓練実施のための基準	14	講義  VTR
2. 評価			1	
評価方法	試験で評価する 方法は担当講師に一任する			
テキスト	中島 紀恵子：系看専門Ⅱ 老年看護学 (医学書院) 佐々木 英忠：系看専門Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 (医学書院) 亀井 智子：根拠と事故防止からみた老年看護技術 (医学書院)			

設定理由：老年期にみられる代表的な疾病や機能障害を学び高齢者の生命維持、健康維持のための看護および終末期の看護を理解する必要があることから科目として設定した。

科目目標：加齢現象によって起こりやすくなる疾病・障害の程度に応じた老年看護の実践の必要性と終末期にある高齢者・家族への看護を理解する。

単 元	単 元 目 標	教 授 内 容	時 間	方 法
1. 障害・疾病を持つ高齢者の看護	1. 高齢者のもつ障害による主要徴候および疾患の特徴と看護について理解する。	1. 障害の程度と生活への影響の評価・看護 1) 視覚障害（白内障） 2) 循環障害（褥瘡） 3) 排泄障害（尿失禁・便失禁） （前立腺肥大症・便秘） 4) 運動機能障害 （大腿骨頸部骨折・骨粗鬆症・廃用性症候群） 5) 脳機能障害（認知症）	21	講義  VTR
2. 終末期にある高齢者の看護	1. 終末期にある高齢者と家族への看護を理解する。	1. 終末期にある高齢者の看護 1) 高齢者の死の捉え方 2) 死の受容への看護 3) 苦痛の緩和と安楽への看護 2. 看取り終えた家族への看護 1) 配偶者の死 2) 家族の心理の理解と看護	8	講義
3. 評価			1	
方 評 法 価	試験で評価する 方法は担当講師に一任する			
ス テ キ	中島 紀恵子：系看専門Ⅱ 老年看護学 (医学書院) 佐々木 英忠：系看専門Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 (医学書院) 亀井 智子：根拠と事故防止からみた老年看護技術 (医学書院)			

科目：小児看護実践の基礎

1単位（30時間）

設定理由：子どもを統合的に認識し、あらゆる健康レベルにある子どもとその家族に応じた適切な看護が考えられるようこの科目を設定した。

科目目標：小児看護の対象とその特性を理解し看護の目的と役割、小児看護の特徴について学ぶ。また、小児各期の発達課題を学び、子どもとその家族に必要な援助について理解する。

単 元	目 標	教 授 内 容	時間	方法
1. 子どもの理解	1. 子どもはどのような存在なのかについて考えることができる。	1. 子ども観の変遷 1) 子どものとらえ方の変遷 2) 成長発達の考え方の変遷	2	講義
2. 小児看護における倫理	1. 子どもと家族が置かれている状況を的確に判断し、子どもの基本的な人権を守ることの意義を理解する。	1. 子どもの権利 1) 児童憲章 2) 児童の権利に関する条約 3) 小児看護領域で特に留意すべき子どもの権利と必要な看護行為	4	講義
3. 子どもの成長・発達	1. 子どもの成長発達を理解し、正しい成長・発達の評価について理解する。	1. 子どもの成長・発達 1) 身体的・精神的・社会的発達 2) 発達評価 3) 遊び	1 1	講義
4. 子どもを取り巻く社会の動向	1. 子どもを取り巻く社会の変化と子どもに与える影響について理解できる。	1. 子どもを取り巻く社会（統計） （人口構造・出生・死亡、疾病構造、ライフスタイルに関する意識調査）	4	講義
5. 子どもと家族	1. 子どもにおける家族の重要性・小児各期の家族の意義について理解する。	1. 家族の中の子ども 2. 小児各期における家族の意義 3. 現代家族が子どもに与える影響	2	講義
6. 小児看護の目的と機能	1. 小児看護の対象とその特性を理解し、看護の目的と役割、小児看護の特徴について理解する。	1. 小児医療・看護の変遷 2. 小児看護の役割と機能 3. 小児看護の目的	6	講義
7. 評価			1	
評価方法	試験で評価する 方法は担当講師に一任する			
テキスト	奈良間美保：系看専門Ⅱ 小児看護学概論・小児臨床看護総論（医学書院）			

小児看護技術論 <小児看護の技術>

1単位 (30時間)

設定理由：成長・発達の途上にあり、環境の影響を受けやすい子どもの特性を理解し、症状、検査、治療、処置に伴う看護及び必要な技術を身につける科目として設定した。

科目目標：子どもの特徴を踏まえた適切な援助技術を学び、健康障害をもつ子どもと家族への健康回復に関する援助の方法と子どもの看護に必要な援助技術について理解する。

単元	単元目標	教授内容	時間	方法
1. 外来における子どもと家族への援助	1. 外来における子どもと家族への援助について理解できる。	1. 緊急度の把握 2. 感染症と他の疾患との区別と対処 3. 受診時の子どもと家族の緊張と不安の軽減 4. 子どもと家族の健康増進のための看護	3	講義
2. 検査や処置を受ける子どもと家族への援助	1. 検査や処置を受ける子どもと家族への援助技術について理解できる。	1. 年齢に応じた説明と同意 2. ヘルスアセスメント 観察・バイタルの測定・身体計測 検査・処置前・中・後の観察と看護 1) 採血 2) 採尿 3) 骨髄穿刺 4) 腰椎穿刺 5) 与薬 6) 注射 7) 輸液療法 8) 酸素療法 (酸素 TENT・保育器など)	10	講義 演習
3. 制限が必要な子どもと家族への援助	1. 制限が必要な子どもへの援助技術及び、その家族への援助について理解できる。	1. 活動制限のある子ども 1) 活動制限の目的 2) 身体的・心理的・社会的影響 3) 動けない子どもと、動けるのに動いてはいけない子どもの看護 4) 家族への看護 2. 隔離を必要とする子ども隔離の目的・方法 1) 身体的・心理的・社会的影響 2) 子どもの日常生活及び家族の面会・付き添いへの看護 3. 食事制限のある子ども 1) 食事制限の目的 2) 身体的・心理的・社会的影響 3) 家族への看護	8	講義 演習
4. 救急処置が必要な子どもと家族への援助	1. 救急処置が必要な子どもと家族への援助について理解できる。	1. 子どもの事故 2. 主な誤飲物質と処置 1) 子どもの熱傷の特徴・重症度及び処置 2) 溺水と処置 3) 心肺蘇生法 4) 乳幼児の意識レベル 5) 吸引 6) 救急処置を受ける子どもと家族への援助	8	講義 演習
5. 評価			1	
方 評 法 価	試験で評価する 方法は担当講師に一任する			
ステ ト キ	奈良間美保 : 系看専門Ⅱ 小児看護学概論・小児臨床看護総論 (医学書院) 奈良間美保 : 系看専門Ⅱ 小児臨床看護各論 (医学書院)			

科目：子ども健康支援論 I

1 単位（15 時間）

設定理由：子どもを取り巻く社会的状況を学び、小児各期の成長・発達に必要な養護や生活への援助について理解するための科目として設定した。

科目目標：子どもをとりまく社会的状況と保健の概念を知り、小児各期の成長・発達に伴う養護や日常生活の援助のあり方について理解する。

単 元	目 標	教 授 内 容	時間	方法
1. 子どもの生活と養護、生活指導	1. 小児各期に必要な養護や日常生活の援助を理解する。	1. 健康な子どもの日常生活 1) 乳児期の養護と生活指導 2) 幼児期の養護と生活指導 3) 学童期の生活と生活指導 4) 思春期の生活と生活指導 2. 子どもと栄養 1) 子どもの栄養の特徴と重要性 2) 乳児期の栄養 3) 幼児期の栄養 4) 学童期の栄養 5) 思春期の栄養 * 発達段階に応じた養護と生活指導自己学習	8	講義
2. 子どもを保護する法律と対策	2. 小児保健に関する行政の役割を理解	1. 小児保健の概念 2. 子どもをめぐる法律と政策 1) 乳幼児の健康診査と保健指導 2) 予防接種 3) 不慮の事故 4) 学校保健 5) 環境汚染	6	講義
3. 評価			1	
方 法 評 価	試験で評価する 方法は担当講師に一任する			
ス テ キ	奈良間美保 : 系看専門Ⅱ 小児看護学概論・小児臨床看護総論 (医学書院)			

設定理由：特定の健康課題をもつ子どもと家族への疾病の回復、健康の保持・増進、成長・発達を促すために必要な援助が理解できるよう科目として設定した。

科目目標：小児期によくみられる主な健康障害や、よく見られる症状に対する看護について理解する。症状変化の早い子どもが疾病を持つことの意味と障害を最小限にする看護の重要性を学び、特定の健康課題をもつ子どもと家族の看護を理解する。

単 元	目 標	教 授 内 容	時間	方法
1. 病気や入院が子どもと家族に与える影響	1. 病気や入院が子どもと家族に与える影響とその看護について理解する。	1. 健康を障害された子どもの看護 1) 外来における子どもと家族への看護 2) 子どもと入院生活	4	講義
2. 急性期にある子どもと家族の看護	1. 急性期にある子どもと家族の看護を理解する。	2. 健康段階別の子どもと家族への看護 1) 急性期の子どもと家族の反応 2) 生命維持・生体機能の安定	4	
3. 回復期にある子どもと家族への看護	1. 回復期にある子どもと家族への看護を理解する。	1. 治療・疾患が子どもと家族の生活に及ぼす影響 2. 生活指導と他職種との連携	6	
4. 慢性期にある子どもと家族の看護	1. 慢性期にある子どもと家族への看護について理解する。	1. 慢性期の子どもと家族の特徴 2. 子どものセルフケア 3. 生活指導	4	
5. 終末期にある子どもと家族の看護	1. 終末期にある子どもと家族への看護を理解する。	1. 子どもの死のとらえかた 2. 苦痛の緩和 3. 心理的援助（グリーフケアを含む）	4	
6. 手術を受ける子どもと家族の看護	1. 手術を受ける子どもと家族への看護を理解する。	1. 小児期の手術の適応 2. 手術を受ける子どもの反応 3. 周手術期のアセスメントの要点	4	
7. 障害をもつ子どもと家族の看護	1. 障害のある子どもと家族への看護を理解する	1. 障害を持つ子どもと家族への看護 1) 障害のとらえ方 2) 障害の受容過程 3) 障害のある子どもと家族のニーズ 4) 社会的支援	3	
8. 評価			1	
方 評 価	試験で評価する 評価方法は担当講師に一任する			
ス テ キ	奈良間美保：系看専門Ⅱ 小児看護学概論・小児臨床看護総論（医学書院）			